



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1934, 14(158): 300-307

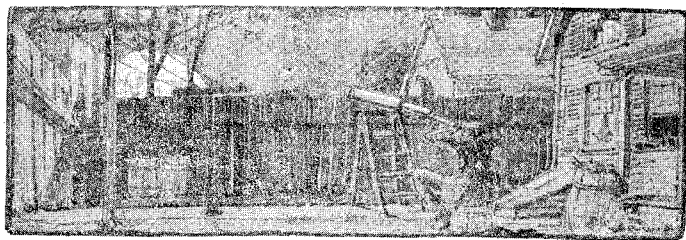
ISSUE DATE:

1934-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165532>

RIGHT:



## 東亞天文協會觀測部月報

### 流星課月例報告 (47)

課長 小槇孝二郎

九月及十月は天候には可成り恵まれた爲め、観測は多い。稲垣、勝、八幡、本田、吉井、勝浦の諸君の活動は目覚ましい。吉井君の一ヶ月31時間 503個のレコードも驚くべきものだが、同君が十月25日から26日に連続 6時間20分観測数98個の成績は、本観測創設以來の新記録と思はれる。今回は新たに下記の観測者を紹介する。

山口縣豊浦中學校

梶間 勇一君

中國西部班の一員として活躍せられることになった。

#### 流星群の出現状況

##### I. 馭者 $\times$ 流星群

これは九月下旬南米の勝浦君、東京市の稲垣君、京都市の宇野君によつて認められた流星群であるが、出現の程度は著しいものでもなく、光度も二三等程度以下のものであつた。

##### II. ジャコビニ彗星に關聯する龍座流星群

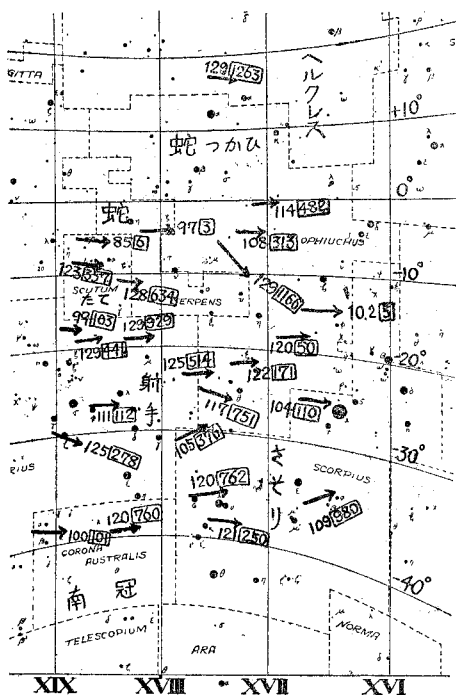
この流星群は10月9日夜半ヨロッパ各地で大流星雨として観測されたものであるが(天界 152號70頁)、本邦では全く見られてゐないといつてよい。9日夜は本田君によつて10日夜は古畑、稲垣、勝、八幡、の諸君によつて天空を注意されてゐながら、全くこの流星の認められなかつた事は、大流星雨の出現が極めて僅少の時間に起つた現象であることを物語るものである。

##### III 十月下旬のオリオン及双子流星群

吉井、勝浦、八幡、稲垣、勝、本田の諸君によつてよく観測されてゐる。出現程度は例年並のものである。前回にも注意した事であるが、この附近に多くの副次的流星群は認められてゐる。

## 寫 眞 課

一九三四年六月の小流星圖



## VI 其他の流星群

九月には魚座に、十月には羊座や牛座等に流星群を認められてゐるが、著しい出現を示すものはなかつた。十月下旬に吉井耕一君によつて獅子座流星群の前驅が認められてゐるやうであるが、これは長野縣の古畑君の發見と比すべき功績であらう。

× × ×

廣島縣の吉井君の七月中の觀測が月例報告後に送られたが、それによると11回延時間1593分、流星數280個といふ勉強振りである。同君の七月末觀測中には水瓶座流星群に屬するものが多數あるが詳細は省略する。

## 黃 道 光 課 よ り

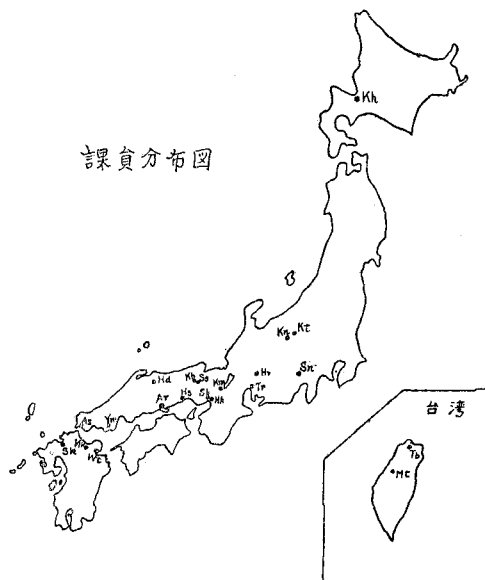
現在の課員は下記の諸氏である。

氏 名	略符	住 所
下 保 茂	Kh	札幌市豊平町三ノ九
金 森 丁 壽	Kn	長野縣上水内郡水内東小學校
佐 野 英 生(舊能勢)	Sn	山梨縣南巨摩郡下山村字杉山 深澤氏方
廣 瀬 永 治 郎	Hr	岐阜縣美濃町
沓 掛 七 二	Kt	長野縣小縣郡青木村村松
龜 井 壽 彦	Km	花山天文臺(名譽課員)
佐 々 木 一 二	S	京都府福知山町内記五丁目
窪 田 繁 夫	Kb	京都府福知山町堀
福 井 實 信	Hk	大阪府池田町元新町
笹 部 榮 一	Sb	大阪府池田町室町九

荒 木 健 兒	Ar	倉敷天文臺(課長)
橋 本 迪	Hs	兵庫縣赤穂郡相生町
本 田 實	Hd	鳥取縣八頭郡八束村
山 田 長	Yn	山口縣柳井町
淺 野 英之助	As	山口縣長府町松小田五〇二(幹事)
坂 元 鐵 馬	Sk	鹿児島市鼓川町63
中 野 繁	Nk	大分縣中津市一ツ松町六四〇
渡 邊 恒 夫	Wt	大分縣速見郡杵築町上町
田 端 實	Tb	臺北市永樂公學校
松 本 武 男	Mt	臺中市有明町二丁目一番地
寺 町 忠 行	Tr	愛知縣廳知事官房統計調査課内
梶 間 勇 一	Kz	山口縣長府町八幡
重 村 力	Sj	山口縣長府町印内濱

以上 23 名であつて今回新たに  
に参加されたのは終りの 3 氏  
である。寺町氏は三月分の報  
告を送られ、既に締切り後で  
あつたために前回發表できな  
かつたが、西天6回の觀測があ  
る。新3氏今後の御活躍を諸氏  
と共に期待したい。(前回中野  
氏を今年初めての如く紹介し  
たが氏は既に昨年九月より觀  
測されてをり只今 No. 9 であ  
る。全く幹事の不注意であつ  
た。)

課負分布圖



次に黃道光、對日照、光帶  
に關する記事の掲載されてゐる文献を掲げる。

「天界」第12號	245頁	黃道光觀測法(古川龍城)
第13號	266頁	對日照が見える
第15號	37頁	すばらしい黃道光の出現(山本博士)
第63號	214頁	札幌に於ける觀測(米田氏)
第79號	420頁	「流星の話」の中(山本博士)

第110號	207頁	黃道光附對日照及黃道光帶(小山秋雄)
第113號	308頁	黃道光觀測法(荒木健兒)……課員必携
第115號	37頁	九月西天の黃道光について(荒木健兒)
第117號	124頁	黃道光課より會員諸氏へ (T. K.)
第119號	173頁	月による黃道光の觀測(荒木健兒)
第121號	263頁	對日照の觀測(荒木健兒)……課員必携
第124號	392頁	黃道光課より(荒木)(幹部寫眞)
第127號	497頁	黃道光の象徵(野尻抱影)
第136號	254頁	黃道光會議
第137號	310頁	黃道光會議決議事項
第139號	404頁	米國の黃道光課長より
第141號	2頁	黃道光の消長及變動について(荒木健兒)
第145號	181頁	噫、黃道光界の恩人 Glanville 師!
第146號	219頁	對日照の光度測定 (C. T. エルヴィー)
第147號	279頁	南洋旅行と黃道光(坂元鐵馬)
第149號	—	黃道光の研究號

#### 觀測月報概報告は

第109, 112, 125, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148,  
149, 150, 151, 152の 各號.

#### 其他の記事は

第4, 18, 60, 73, 77, 106, 126, 131, 156, の各號

#### 「ブレテン」

第13, 66, 113, 121, 127, 141, 142, 162, 164, 166, 167, 168, 176,  
179, 190, 208, 212, 219, 227, 237, 252, 255, 265, 273, 275,  
以上の各號で——線の附してあるものは觀測發表である.

#### 「課通信」(荒木課長發行)

第39號まで(1931, 三, 21——1933, 十二, 4)

#### 其 他 倉敷天文臺發行小冊子

「對日照附黃道光帶」(小山秋雄)

花山急報 等以上.

× × × × ×

**4月の報告** 觀測數が餘り多くないので、6月とまとめて報告する豫定である.

- ・觀測報告は一ヶ月分づゝまとめて其翌月の上旬中に幹事宛送られたし.
- ・花山の都合に依り、しばらく黃道星圖及び報告用紙共幹事宛請求されたし。(送料封入に及ばず)

(1934, 五, 3)

## 太陽課 黒點相對數報告 (1934年四月)

觀測者(觀測地)	松木(臺灣臺中高女)	中野(大分縣中津市)	山田(山口縣小郡町)	日野(愛媛縣新居郡)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	井澤(大阪府岡中學)	北村(大阪府外布施)	龜井(花山天文臺)	木邊(滋賀縣中里村)	三澤(長野縣上諏訪)	沓掛(長野縣青木村)	清水(静岡縣島田町)	森久保(橫濱市中區)	水谷(東京市本郷區)	稻垣(東京市芝區)	山根(東京市澁谷區)	千葉(若手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)
鏡徑耗	50	102	75	98	150	75	36	110	50	55	73	73	102	100	35	38	75	44	50	58
倍率	40	55	48	69	68	77	55	92	62	64	60	83	75	73	50	50	30	43	50	44
1	雨			旅	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	雪	雨	雨	雨	雨	病	雪	0
2	雨			旅	曇	曇	曇	曇	曇	曇	13	15	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	14
3	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	11	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	13
4	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	11	11	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
5	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
6	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
7	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
8	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
9	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
10	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
11	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
12	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
13	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
14	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
15	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
16	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
17	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
18	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
19	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
20	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
21	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
22	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
23	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
24	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
25	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
26	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
27	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
28	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
29	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
30	曇			曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	病	曇	0
平均	10			8	13	14	10	10	6	10	9	10	16	15	8	8	9	11	11	9
日數	17			17	20	22	21	16	17	17	15	28	20	18	16	13	16	16	28	

○太陽黒點も確かに極小期を過ぎたらしい。もはや、高緯度の新群が續々と兩半球に現はれて来る。觀測者も奮起すべき時である。○相對數の計算式は、[群の數]+10×[黒點總數]である。○太陽課の報告は漸次花山ブレテンに學術的なものを移すことにしたい。先づブレテン第280號からの變り方を御覽願ひたい。

○觀測部員は花山ブレテンを精讀すべし !!!

## 彗 星 課

1934年の彗星界 今1934年中に近日點へ再歸する筈の彗星は次の三つ

彗 星	近日點通過豫定	出 現	要 項
Wolf	2月 28日	第 7 回	{ 去1933年7月末發見さる 1933 e 軌道甚だ不確 甚だ有望
Tuttle-Giacobini	3 21	第 3 回	
Encke	9 16	第 30 回	

◎3月30日、コペンハーゲン來電によれば、南アフリカのジョハネスブルグ天文臺のジャクソン氏は去る3月27日21<sup>h</sup>40.<sup>m</sup>7(萬國時)に、下記の位置に一つの彗星を發見した。

赤經 13<sup>h</sup>18.<sup>m</sup>2      赤緯 -27°10'      (ヒドラ星座)

光度は12等級であつて、其の日々運動は、赤經 -1<sup>m</sup>36<sup>s</sup>、赤緯 -24' である。星像は符號  $\perp$  4<sup>+</sup> で以つて示されて居る。即ち、尾の記録なく、星霧狀を呈して居る。此の發見は本年最初の彗星の發見である。従つて此の彗星は 1934a と命名さるべきである。ところが、五月下旬になつて、I. A. U. のハガキ急報が到着し、其れによつて此の彗星は其の後の觀測により、全く新小遊星であることが明らかとなり、1934 FG と命名された。従つて今1934年は未だ一回も發見彗星が無いわけである。

### ◎1925 II (Schwassmann-Wachmann) 彗星の最近の光度變化

此の周期彗星の光度變化に關しては發見以來、世界注目の的となつて居るが、最近又々甚だしい光度變化を示した。即ち、I. A. U. Circular 473 によれば、去る3月10日、18等級であつた此の彗星は、僅か4日の間に、即ち3月14日には一躍、光度13等になつたのである。現在、 $\alpha$  Leonis (Regulus) の南2、3度の所を北上中、軌道上に於いては其遠日點附近にある。

### ◎Tuttle-Giacobini 彗星

今年歸來する彗星の一つであつて、其の近日點通過は3月中旬の豫定であつたが、未だ誰れも發見しない。地球彗星間の距離は、2月下旬最も近くなつた筈である。現在蛇座の北端附近を北東に進行中であるから夜明前の星である。光度は段々減少して行くから今後の觀測は益々不利となる。

## 變 光 星 課 報 告 (15)

小 山 秋 雄

四月中の觀測數は下表の通りである。但し沓掛氏の觀測數には3月中のものが含まれてゐる。尙新に報告された金田氏の住所と使用器械は

金田弘倫 京都市大和大路四條下ル三丁目      内眼及 12cm 反射鏡

星 名	觀 測 數						
	今 津 (吹田)	木 邊 (滋賀)	加 藤 (大阪)	西 村 (京都)	沓 掛 (長野)	金 田 (京都)	笹 部 (池田)
RW Aur.	—	6	—	—	—	—	—
RS Cnc.	—	4	—	—	—	—	—
RV Cnc.	—	6	—	5	—	—	—
S CMi.	—	4	—	—	—	—	—
O Cet.	—	—	—	—	4	—	—
R Cor.	4	—	—	—	—	—	—
$\eta$ Gem	—	4	—	—	4	5	—
S Gem	—	6	—	—	—	5	—
R Hya	1	—	—	—	—	—	5
U Hya	—	—	9	—	4	—	—
V Hya	—	—	8	—	—	—	—
R Leo	—	—	—	—	10	2	—
R LMi	—	5	—	—	—	—	—
R Lep	—	2	—	—	—	—	—
X Mon	—	3	—	—	—	—	—
U Mon	—	4	—	—	—	—	—
$\alpha$ Ori	—	1	—	—	—	—	—
BL Ori	—	4	—	—	—	—	—
$\rho$ Per	—	—	—	—	4	—	—
X Per	—	—	—	—	1	—	—
U UMa	—	—	—	—	2	—	—
SU UMa	—	4	—	—	—	—	—
R Vir	—	2	—	—	—	—	—
合 計	5	55	17	5	29	12	5

▲この星の中、RW Aur. は急激な變り方をする特異な變光星で、普通の分類のどの型にも入らない星。RV Cnc, SU UMa は共に SS Cyg. 型に屬するらしい星で、上の三星は皆變光星の研究上重要な星である。光が十一、十二等級といふ淡きなので、一般の人にはむづかしいが10極級の望遠鏡の使用者は是非觀測してほしい。

▲4月號 208頁に書いた極大近い變光星中報告のあつたのは、上表の如く、S CMi が4個、R Hya が6個、R LMi が5個、R Vir が2個といふ甚だ貧弱な數である、此の號の現れる頃にはもう極大のすぎたものもあるだらうが、觀測せられたものは握りつぶさずに是非報告していただきたい。

▲今後、報告を受けた觀測中の大多數は花山天文臺のブレテンに載せる事となつた。

▲花山ブレテン第276號に金森丁壽氏の  $\alpha$  Cas. のすぐれた觀測が發表された。 $\mu$  Cep型觀測者は此の様々な根氣のよい觀測をする必要がある。(以上)



## 遊星面課報告

**遊星面課員の新設望遠鏡** 當課幹事木邊君は今回新望遠鏡を据付けた。詳細は別稿の通りだが、要約すれば、30cm 反射赤道儀、運轉時計付きのものである。鏡は暫く 26cm 使用。F は 230cm で、90×、150×、190×、250×、400×、450×、600× を使用される。アイピスは、ケルナー及オルソで、パローレンズで擴大して 400×、600× を得る様になつて居る。光學部は自作、器械部分は西村製、今後花山クック 31cm や、32.5cm 反射、倉敷 31.5cm 等と相待つて種々の觀測に使用の筈。

**概況** 4月上旬は天候は一寸よかつたが、中下旬は駄目、然し今木星の觀測には非常に位置が好條件にある。10極級でも面白く見えるし、15cm 級の方は絶好の機會である故奮起を待つて居る。

**金星** 曉で、見易いが、案外何も見えないのと、朝と云ふ惡條件で成績がとぎれて居る。沓掛氏が 4月18、20日、木邊君が 3月28日、4月2日、3日、7日に見て居るのみ、どれも變化は見て居ない。見甲斐がなくとも、もつと見て欲しい。

**木星** 國際天文同盟サーキュラー第472號により、ドイツのアマチュア Kutscher 氏が木星の表面に著しい斑點を發見し、ポツダムにてその斑點を 80cm の望遠鏡で觀測された様子が報ぜられた。昨年土星の白斑事件で可なり世の注目を引いたので、其後ポツダムで觀測されたる time より推算し、宮本、木邊兩君の觀測では特に目立つた程のものは見られて居ない。1ヶ月以上も経て居るのだから、變化の早い木星面の事だから淡れてしまつたのかも知れない。

猶ほ宮本君の言として、急報された、南赤道帶の變動に富んで居る（花山急報85號）云々は、3月中旬頃、大赤斑の西側 30°位の所で、緯度は大體、大赤斑の南端位より少し南位の所にボールの様な目立つた點を認めたが、大赤斑の方が、ぐんぐん進んで3月下旬（25日頃）には丁度之の南端と衝突？して、大赤斑に對して相當強いディスタバンスを與へたのがよく目に付いた様子で、其後今では大赤斑より餘程遅れてしまつて居るとの事である。又大赤斑直後の帶の割れた所も、又急報に記載された、白斑も随分短時日に變化して居る。又木邊君が新望遠鏡の試験の時に見た相當明瞭な白斑もありして、兎角南赤道帶は變化が甚だしい。又北赤道帶は黒く細く、赤道の白帶は此の頃では稍暗く、いつも南北兩赤道暗帶の間に連續する位の淡い模様が出来て居り、細かい帶も見える事が多い。又白斑は白帶中にも相當目立つてある様で注意すべき點が多い。今木星を見て居るのは宮本君を主に木邊君がスケッチを取つて居る位で、觀測の出来てない日が多いので、結果を恥ぢずにスケッチを受けたい。御不審點のは課の方で出来る限り御答へする故御奮起を望む。（幹事記）